

〔優秀賞〕

つながり合える社会に

三春町立岩江小学校 六年 郡司 颯大

ぼくは、ときどき失敗をしてしまう。どんな失敗かというと、「言葉」の失敗だ。イライラしていたり、頭にくることがあつたりすると、周りの人に対して悪い言葉を言ってしまうことがあるのだ。もちろん、冷静になつて考えてみれば、それはいけないことだということとは分かる。ぼく自身も、何とかしなければいけない問題だと思つている。

こんなぼくでも、先生からほめられたことがある。それは、正直なことで、そして、素直なことだ。失敗をしてしまった時や、何か困ったことが起きた時は、とても勇気がいるけれど、ぼくは、家族や先生、友達に正直に相談するようになってきている。ぼくは、これまで、そうした場面で何度も周りの人たちに助けてもらつてきた。怒られることもあるけれど、みんな、いつもぼくの話聞いてくれるし、一緒に問題を解決しようと思つてくれる。とても心強い存在だ。もし、ぼく一人だったら、問題を解決することはできなかつただろうし、もっと悪い方向に事態が変わつて

しまつていたかもしれない。こうして改めて考えてみると、ぼくは、周りの人たちのおかげで救われ、守られているのだということに気付いた。

今回、「社会を明るくする運動」というものを知り、ぼくに犯罪や非行について考えてみたけれど、初めは、身近なこととして考えられなかつたし、よく分からないと思つた。しかし、改めて自分のことを振り返つてみると、明るい社会にしていくためには、周りの人たちの存在が必要なのではないかと思うようになった。

何かに悩んでいる人に、もし、「どうしたの。」と声をかけてくれる人が一人でもいたら、どれだけ心が軽くなるだろう。悲しい出来事に、心がこわれそうになっている人に、「だいじょうぶ。」と声をかけてくれる人が一人でもいたら、どれだけ心が救われるだろう。そうした人の優しさには、とても強い力があると、ぼくは信じている。その温かさこそ、社会を明るくしてくれるものだと思う。

ぼくは、学校の様々な学習で、物事の一部しか見ないで判断するのではなく、想像する力をつけて、いろんな可能性があるかもしれないという見方ができるようになることが大切だということ学んだ。相手の立場になつて想像してみること、いろんな面を見ようとするのを意識する。そうすれば、相手のことを理解しようとする心や、相手をおいやる心をもてるようになるのではないだろうか。

失敗してしまった人の気持ちなら、ぼくもよく分かる。だから、そうした人たちに、声をかけたり、寄りそってあげたりすることが、ぼくにもできるかもしれない。そんなふうには、つながり合える優しい社会になっていったらいいなと思う。そして、その輪がどんどん広がれば、それは、大きな力となって、社会をより明るくしてくれるだろう。ぼくも、救ってもらえばかりでなく、みんなを救えるようになりたい。そして、人とのつながりを大切にしながら、明るい社会をみんなのでつくっていききたい。